

沖縄から日本全国、そして世界へ 奥キヌ子

日本の創薬ベンチャーとして初めて新薬開発に成功したレキオファーマ。それを成し遂げた情熱と学び、そしてこれからのことをお聞きしました。

何もわからないから必死に。何もわからないからできた。

琉球大学在学中に休学、台湾に1年留学したことが、私自身の人生観を大きく変えた時期だと思えます。

台湾は海産物、農産物、緑が豊かなこと、それらを活かして地産自立を実現していることは、カルチャーショックや刺激の連続でした。

留学してはじめて自分自身の日本文化に対する知識の無さを痛感し、留学を1年で切り上げ沖縄に戻り琉球大学を



2017年に受賞した第53回琉球新報賞は多くの方の努力と協力があるもの。こうやって賞をいただくことはとても光栄で、そして嬉しいことです。

卒業。「沖縄を変えていく」という強い気持ちのなか、沖縄でしかできない果物などがたくさんあるにも関わらず、

農業は経済的には成り立たない事実を痛感しました。そんななか、付加価値が高

いと考えたマンゴーやレイシ、ヤシの木など亜熱帯植物の輸入販売を手がける会社を起業しました。

しかし、結婚、子育てが重なったことで事業は中断。再開後は農地確保をはじめとする自分自身が

追い求めることの資金作りのため、飲食店を立ち上げました。

その頃に、手術が必要な痔を切らずに治す中国の「消痔靈」という治療薬を

知り、「これだ!」とひらめいたことが今へつながります。

夜は飲食店を経営、昼間は医薬品の開発。GLP施設にて動物での非臨床試験を実施。時には自ら試験管を振り行う日々が続きました。

日本で新薬の承認を得るには、長い年月と技術力、そして膨大な資金力(500億~1000億)が必要ということがやっと分かり、力のある製薬会社との共同開発を決

沖縄の先人たちは医食同源、豚の頭を煎じたり、ニガナだったりウッチンだったり、そういうものを生活に取り入れていたことはとても素晴らしい視点だと感心します。

沖縄で産業を興すには世界、そして日本に負けないものを。

めました。幾多の紆余曲折を経て、開発を決定してから17年目の2004年、「ジオン注」の製造承認を取得しました。

その後ポスト「ジオン」の開発は、琉球王朝時代の秘薬「ウッチン」の研究にしました。「予防」に着目。健康の基本は食事のバランスと運動、知的好奇心。人は40代頃から体内の抗酸化物質が減少



ずっとお会いしたかった女性起業家。やっと奥社長にインタビューができて嬉しい時間でした!ありがとうございます!

するといわれています。その為、いろいろな抗酸化物質を補い身体をサビと炎症から守り、老化を防ぐことで認知症のリスクも低減されるのではないかと、科学的データに基づきクルクミンや葉酸などが主成分のサプリメント「メモリン」を開発しました。

「人生100年を生きる時代」に合った社会システムが必要で、年齢による仕事の

噛むことが脳を活性化させるので、食事はしっかりとることが基本。そしてサプリはとれないものを補うもの。



とても柔らかい雰囲気のお氏が、仕事の話になるとキリッと表情が変わり、わかりやすく、的確な言葉で伝えてくれる。



奥キヌ子

出身地 ● 沖縄県糸満市
現職 ● レキオファーマ株式会社 代表取締役社長

【経歴】
糸満高等学校出身
琉球大学農家政工学部卒業

【職歴】
23歳で貿易業を起業し、タイ・シンガポールのビジネスを展開。
1980年 飲食店経営
1991年 株式会社中薬研を設立
1994年 代表取締役就任
2000年 レキオファーマ株式会社に社名変更
2004年 厚生労働省より「ジオン注」の製造承認を取得
2005年 「ジオン注」発売開始

【主な受賞歴】
2004年 「ジャパン・ベンチャー・アワード2004」 起業家部門で経済産業大臣賞を受賞
2006年 「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006」 総合ベスト10にて8位、リーダー部門4位
2017年 第53回琉球新報賞を受賞